

棚田に吹く風

2015
夏
Summer
季刊

2 特別寄稿

朱鷺と棚田とビオトープ

5 フォトエッセイ

田園芸術のすばらしさ

6 棚田・里山からのたより

農業では食えない、でも棚田なら食える
新潟県長岡市小国町法末集落

8 ヨネちゃんの ニッポン全国

棚田オーナー制度紹介

棚田の逸品

9 棚田博士は今日も行く

会津飯豊登山口にある棚田
福島県喜多方市早稲谷

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report



特別寄稿

朱鷺と

棚田と

ビオトープ

NPO法人トキの島事務局長
(棚田ネットワーク会員)

中島 明夫
写真・文

棚田ネットワークは2003年から、基本的

的に年に一回ではありますが、佐渡の浜地区でボランティア作業を実施してきました。

トキの野生復帰を想定し、そのえさ場となる棚田・ビオトープの保全をお手伝いしようというものです。この時、受け入れ側の要となっ

てくれたのが、中島明夫さんです。

家庭の事情で、今春佐渡を離れることになってしまったのですが、佐渡のビオトープ王とも呼ばれた彼に、佐渡の環境保護活動の現状について語ってもらいました。



1：上柳平のビオトープ。棚田ネットワークも手伝った／2：月布施集落で管理するビオトープ「落とし」
3：獨協大学経済地理学研究室のゼミ合宿／4：新潟大学トキプロジェクトが管理を継続するビオトープ「キセン城」



秋の田んぼとトキ

2000年から始まった佐渡島でのトキ野生復帰事業では、全鳥捕獲時の生息地であること、農薬や化学肥料の使用制限で営農に迷惑をかけること、という配慮のもと放棄された山奥の棚田の復元から取り組みが始まった。

当初、放棄田を復元する作業においては、棚田ネットワーク、樹恩ネットワーク（10年以上継続）がボランティアを募って佐渡の棚田での活動プログラムを展開した。獨協大学経済地理学研究室では地域調査実践と環境整備ボランティアのセットのゼミ合宿（7年間実施）、新潟テレビ21ときプロジェクトではテレビ局がスポンサー企業とボランティアを募り、佐渡の活動団体へ送り込んできた。新潟大学トキプロジェクトは研究実習地として放棄棚田を復元している。

これら交流による放棄棚田の復元が展開されていったのには、中山間地直接支払制度2期目の一律減額の対処のひとつとして、交流・協働による多面的機能の創出が求められていたことが大きい。加えて、NPO

法人の乱立の時期と重なり、民間助成金の活用、自然再生事業の受託などと、それぞれのトキ野生復帰の夢の実現の思いが上手く結びついた。これら地域住民、NPOの取り組みが展開される中、新潟県ではトキ生息環境整備活動団体への助成金事業を展開している。

佐渡市では、NPOや大学・ボランティアの活動拠点としてトキ交流会館を設置し、道具の貸し出し、ボランティアバスの提供、研究助成、ビオトープ整備の助成金、朱鷺と暮らす認証制度の創設などで市民やNPOの活動を支援している。事業展開が進む中、象徴的な棚田のある地区で岩首談議所が交流拠点として設置され、大学ゼミ・サークル、研究者が活用している。また、新潟大学では環境保全活動を担う人材育成を4年間で280名創出、棚田地区担当の地域おこし協力隊員3名が配置されている。これらの他、佐渡金山発展により増えた人口への食料供給のために開発された小倉千枚田を復元

朱鷺と 棚田と ビオトープ



第22回
全国棚田（千枚田）サミット
開催告知ポスター

し棚田オーナー制度も展開している。これら取り組みの広がりを受け、平成28年7月の全国棚田サミット佐渡市開催へ向け準備が進められている。

トキとの共生を活かすため、生物多様性佐渡戦略が作成され、世界農業遺産（GIAHS）登録が実現した。佐渡の棚田はその象徴として描かれている。これまでに、佐渡の棚田とトキをセットにしたブランド米は新潟県総合生活共同組合、パルシステム生活共同組合が扱ってきた。佐渡棚田協議会も設立され、トキとの共生、自然再生、生物多様性、地域再生、GIAHSの取り組みが展開する中で、人・金・情報などをうまくまわし、環境保全や地域活性化が期待されているが、如何に集約し価値を共有するかが課題である。

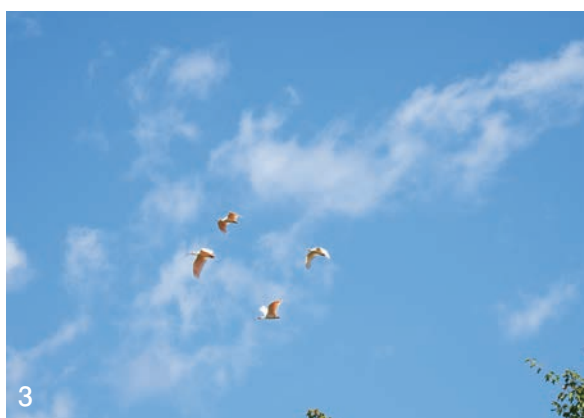
佐渡に巡ってきている中山間地直払いなどの交付金の一部を、来島するボランティアの経費の一部として活用するような仕組みを運用できれば、継続的なメリットを両者が享受できることになるのではないだろうか。



1



2



3



4

1：トキ交流会館／2：復田された小倉千枚田／3：大空を飛ぶトキ／4：冬の田んぼで餌を探すトキ



ムカンチャイの棚田 9月下旬の風景

田園芸術の すばらしさくベトナム編

ベトナムの棚田は、北部红河支流沿いの4州にあります。標高が約1千メートルあるため一期作。担い手は、北からの移住民族。山頂付近ではまだ開拓が行われている様に観られます。小高い棚田、山の重なり、そして河原との調和が素晴らしい所です。ところで、私はこの田園風景を前にして「ホッとする」を感じたことがあります。広大、急峻、角張った畦や土坡が心を穏やかにさせないのです。丹精込めて作られた棚田には、その心が移ったかのような美しさがありますが、「美しい＝ホッとする」ではなさそうです。

写真・文 森 公夫



森 公夫 もりきみお



1941年 千葉県に生まれる。2001年 運輸会社を定年退職、写真を趣味として現在に至る。

所属写真団体 日本写真作家協会

●コンテスト入選歴：フジフィルム、JPA、二科

●個展「猿だより」 2011年6月 新宿 シリウス

●個展「時空アメリカ西部」 2012年5月 四谷 ポートレートギャラリー

●個展「梯田—通天之路」 2014年3月 新宿 シリウス

棚田・里山
からの
たより



上：法末集落と棚田／下左：冬の集落風景／下中：厳冬のまつり斉の神の男衆／下右：棚田と夕日が美しい足湯

農業では食えない、でも棚田なら食える

新潟県長岡市小国町法末集落 ほうすえ

棚田と伝統古民家の集落

長岡市と小千谷市の市境の山間地にある法末集落は、棚田とよく保存されている伝統的古民家がつくる美しい里山風景が評判です。現在住民は73人戸数39戸、高齢化率70%超の山間集落です。

日本海まで20キロ。冬は積雪が4メートルを超える豪雪地帯で、つい数年前までは集落の男衆は冬の間東京に出稼ぎに行っていました。

しかしこの雪が山のわき水となって稲作を可能にし、標高300メートルの集落は夏でも朝夕は涼しい気候で、これが甘みのある美味しいお米コシヒカリを育てます。

山では山菜や山野草が豊かに茂り、美味しいわき水がそこに出ています。

中越震災からの復興

平成16年10月の中越震災で、集落は家屋も農地も大きな被害を受け、

住民は一時麓の町に避難しました。

しかし、翌年の春には震災で被害が少なかった昔からの旧道を歩き、集落に通い、家や農地の復旧を自力で始めました。防災集団移転事業という、自然災害に遭った地区をまとめて移転させる補助事業の提案も行政からはありましたが、住民は迷うことなく集落に帰るための作業に一生懸命でした。

その結果、集落にはほぼ全戸が戻り、棚田など農地も元どおりになり、震災からもっとも早く復興した集落です。

防災まちづくりツアー

昨年10月には、農水省の交付金を受け、中越震災10年記念防災まちづくりツアーを実施しました。これは、震災という大災害を経験し、その後復興に取り組んだ経験を、首都圏などこれからの大災害に備える自主防災組織のみなさんに伝える、つまり震災と復興の経

験を観光資源とする新しい都市農村交流ツアーの試みです。

そして、勉強し、感動して帰ってもらうだけではなく、これから農村と都市が普段から「おつきあい」をして、いざという時は助け合える関係をつくるのが目的でした。具体的には自慢の棚田米を買ってもらい、農業や田舎暮らしの体験に来てもらい、都会と農村集落住民が互いに顔の見える関係を築くことです。

大災害が来た後、ライフラインが壊滅した大都会では水も食料も乏しく、企業や役所を再建したくても、食料など物資がなければ従業員は頑張れません。そんなときに普段から付き合っていた農家が食料など救援物資を届けてくれ、長期的な避難先として受け入れてもらえる心強い存在となります。

このように、大災害発生後の避難から復興までを考えて、今からできる準備をする大切さを伝えるために「防災まちづくりハンドブック」を作成し、ツアー参加者に配りました。

棚田で食える集落へ

集落の歴史は1509年から始まっています。この500年を豪雪や震災に耐え、美しい集落景観を育んできた法末の将来、次の百年をいかに切り開くか。高齢化率70%を超える限界集落が、これから若い人たちが誇りをもって、安心して暮らせる農村になるための方策をいろいろ実施してきました。

そのなかでも最も力を入れている方策が棚田米の販売です。地元農協にはもう頼れないことは明らかです。これからは独自の販売ルートを開拓し、大規模流通などの市場価格との競争に巻き込まれない

販売方法を構築します。

棚田を一町歩（1町）耕作することで250万円の収入が保証されれば、きつと集落出身者やターンの若者が住むようになるでしょう。

そのためには1キロ千円で棚田米を購入してくれる顧客を見つけないなりません。それには新潟県内はもとより、首都圏のマーケットを開拓することが重要です。

農業では食えないと誰もが言います。しかし「棚田なら食える」と言えるようになったとき、法末集落の次の百年が見えてくると信じて、顧客開拓に取り組んでいます。

（株式会社 法末天神囃子）
ほっすえてんじんばやし

防災まちづくり
ハンドブック



■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR上越線・小千谷駅よりタクシー利用で約40分。またはJR飯山線・越後岩沢駅よりタクシー利用で約25分（タクシーは要予約）

【自動車】 関越自動車道・小千谷ICより国道291号線を柏崎方面へ約4キロメートル、国道404号線経由で県道341号に入る。交流宿泊施設「法末自然の家やまびこ」が目印。小千谷ICから約30分。

■ お問い合わせ

法末天神囃子 代表 宮田 裕介
Tel & Fax 0258-95-3125
Mail : office@hossue.jp
ホームページ <http://www.hossue.jp/>



古民家ゲストハウス「りぜん」



富士山が見える棚田で
おこめづくりをしませんか？

第五回は山梨県南巨摩郡富士川町より、平林の棚田をご紹介します。ここの棚田からは富士山が見えるの。作業の合間に富士山を見て、心も体もリフレッシュできるわね！

平林の棚田オーナー制度の目的は、作業を通じて地元の方と交流をし、棚田の景観を農家と都市住民、みんなで保全すること。



また、棚田での農業を体験することで、その大変さ、楽しさ、お米の大切さを理解してもらうこと。作業内容は田植え、草取り、稲刈り等。年間を通して、4回以上の作業をできるオーナーを募集しているわ。作業は、平林活性化組合、そして地元農家の方が指導して下さるから、たくさん教えてもらうことが交流のきっかけになるヨネ～。



参加料金は100㎡あたり、年間23,600円。収穫したお米は、白米が玄米の状態ですべて持ち帰れるの。

詳しい内容は、平林交流の里「みさき耕舎」平林活性化組合(TEL:0556-22-0168)に問い合わせるか、富士川町のホームページをチェックしてみてくださいよね！

<http://www.town.fujikawa.yamanashi.jp>

※棚田オーナー募集地域紹介サイト⇒ [棚田百貨堂](#) [検索](#)

ヨネちゃんの



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介
第五回



「メリーライス」は、英田上山棚田団が耕作する岡山県美作市上山の田んぼで作られた棚田米です。

棚田珈琲 粗挽き(ドリップ用)
120g 1,250円(税込)

世界に広がる玄米コーヒー
原料は無肥料無農薬で栽培したメリーライス玄米のみ。妊娠されている方やお子様、カフェインが苦手な方に珈琲の代替品として安心して楽しんで頂けます。また、この珈琲の特徴は穏やかで優しさのある香りと味わい。一口飲む度に、心と体、爽やかな高いリラックス効果が得られます。まるで体中に自然のエネルギーが広がっていくようです。
この珈琲を作るのは「百姓屋敷WaRa」。岡山県高梁市にあるたつた2部屋の宿泊施設。コンセプトは衣食住すべてのいのちの質向上。そんなWaRaのオーナー、実は自然食業界では超有名人、船越康弘先生です。船越先生が世界中に広げたいと考えるこの玄米コーヒー。一度飲むだけでも感動する事間違いなし、続けて飲むと健康間違いなしです。

特選

棚田の逸品

第三回
棚田珈琲
メリーライス・コーヒー

季譜の里 岡山県美作市湯郷180 info@kifunosato.com
<http://www.kifunosato.com/merry-shop/> ← HPでこちらの商品を購入できます。

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

会津飯豊登山口にある棚田

福島県喜多方市早稲谷



なかしま みなひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

喜多方市は会津盆地北縁の都市、
蔵づくりの建物とラーメンの町と
して知られ、平成の大合併で周辺
の4町村を併合した。その一つが
早稲谷のある山都町、中心市街地
は喜多方の市街地より西10^分、会
津盆地の北西端、阿賀野川と只見
川の合流点近くに位置するかつて
の宿場町。早稲谷は、その中心地
の北6^分、標高300〜500^{メートル}
の低山地を流れる一ノ戸川の支流
早稲谷川沿いに家屋が点在、川を
遡れば東北の名峰飯豊山に至る集
落である。その存在は「棚田に吹
く風」の里山便りに浅見彰宏さん
の投稿があり知った。

本木上堰の恩恵を受ける棚田

2014年秋、早稲谷を訪ねた。
東北新幹線の郡山からは磐越西線、

会津若松を経由し山都で下車。駅
から現地までの公共交通機関はな
く、軽トラに乗った浅見さんが出迎
えていた。早稲谷までの道は、駅
前の県道18号を東へ、踏切を渡り
かつて宿場町だった雰囲気を残す
商店街を横断、街外れの交差点を
左折、県道43号を一ノ木方面へ向
かう。三叉路を右へ国道459号
に入り、相川温泉の三叉路を左折、
県道385号を北上する。すぐに
本木集落になり、集落中央部にあ
る公民館横で左折農道へ、一ノ戸
川を渡り、坂道を上ると本木の棚
田に続いて早稲谷の棚田が現れる。
一般には県道385号をさらに北
上して左折、町道を西に向かえば
早稲谷の集落に至る。

棚田は、丘陵地斜面を縫って流れ
る本木上堰の用水路に沿って、数

枚から数十枚、それぞれ独立し点
在してみられる。圃場整備が行わ
れたのか、棚田にしては一枚が比
較的大きく、法面の土坡も堂々と
している。用水路最上流の受益地、
小字名の「泥鰌」には、くの字に折
れ曲がった谷に7枚の棚田がある。
上段の3枚は浅見さんが耕作、2
枚は1^年前後、1枚が8^年ほどの
大きさ、法面は2〜3^{メートル}の高さがある。下段の4枚は3枚が10^年前
後の広さがあるが休耕地になつて
おり、最下段の20^年の広さの棚田
のみが耕作されている。

これら棚田の下流部に早稲谷で
最も広い「中平」には30枚近い棚田



1：中平地区の棚田／2：早稲谷集落／3：広大な法面／4：260年前からこの地区の田んぼに水を供給し続ける本木上堰／5：浅見さんの鶏舎。鶏はテンにやられたが再挑戦中

の団地がある。団地は2つの浅い谷によって東、中央、西の3つのブロックを形成、さらに東西に横断する農道により上下段に分かれている。農道は直線的、棚田の形状は方形に近く、一枚が10㍎前後から20㍎ほどの広さがある。これらの特徴から事業による圃場整備が行われたことを窺わせる。東のブロックは農道の下に20㍎の広さの棚田が3枚、2枚が耕作されており、それぞれの段差が5㍎、巨大な法面である。草刈の大変さが窺われる。農道の上には10㍎20㍎の棚田が7枚、法面の高さが1㍎2㍎、整然とし階段になっている。中央のブロックは農道の下に高さ2㍎の法面により段になった10㍎前後の棚田が3枚ある。西のブロック

クは農道の上に3枚、農道の下に10枚以上の棚田が確認される。広さは10㍎前後のものが多く、法面は上段ほど高く、1㍎5㍎の違いがみられる。早稲谷最下流の受益地「大谷地」は、字義通り谷地の湿地で地元では「ひどろだ」と呼ばれている。未整備と整備された棚田がいりまじり平均5㍎の棚田が30枚ほどあり、そのうちの3枚を浅見さんが耕作している。

大手企業を退職して会津へ

棚田の紹介者である浅見さんは45歳、脱サラして千葉県から一ターンした兼業農家である。1991年バブルの時期、上智大学文学部を卒業して神戸製鋼に入社、海外出張の多い営業マンになる。しか

し、大学を出たばかりの若造がビジネススクラスの飛行機に乗り、超一流ホテルに宿泊、高級車で商談先へ乗り付けたという地に足の着いていない生活に疑問を持ち転職を決意。その承諾を得るため、週末の休日を利用してバンコクに駐在する商社マンの父親を訪ねるが、絶対に許さないといって猛反対にあう。それでも意志を変えず、退職を決断、その後の行動は就農を目指し計画的に進められた。

まず、1995年6月に退社すると、7月に有機農業で知られる金子美登さんが主宰する埼玉県小川町の霧里農場の門をたたき、一年間と期限を決めて研修に励んだ。後にこの時出会った長野県野辺山高原のレタス農家出身の女性と結

婚するのだから、農場での修業は彼に二重の恩恵をもたらしたことになる

次に就農先は、これまでの友人・知人との関係を保持するために関東に隣接する地域、山深い山間地、温泉のある雪国などの条件をつけて探し、学生時代に冬山登山やスキーなどで足繁く通った会津地方に決めた。問題は住む家、過疎地には空家は多いが、それほど簡単に借りることはできない。有機農業の仲間を通じて情報を集めている過程で、会津北部の山都町（喜多方市）に空家を紹介している人がいるという情報をキャッチ。県の農業改良普及員であるその人に会うと、すぐに案内され即断を求められて決めたのが飯豊山の登山口に当たる早稲谷の空家、家賃月5千円の古民家だったのである。

1996年7月、一年間の霧里農場での研修を終え、即早稲谷に移住した。彼の考えが堅実なのは、簡単ではない就農に先んじて、確実に稼げる仕事を見つけ、兼業農家を目指したことだ。すぐに家を紹介してくれた普及員の口利きで福島県農試の臨時作業員になり、

半年勤めた後、現在も続けている喜多方の酒造会社にて職を得て、冬場の貴重な収入源にしている。

有機農業に取り組む

本業の農業は、初年度放棄された20㍓の開墾から始め、2年目に7㍓、10枚の水田を借りることができた。移住3年目、青年会や消防団にも入り、霧里農場の同級生と結婚。すると周囲がヒトデナシ（人の字にノの二画が足りない一人者のこと）から一人前とみなしてくれるようになり、近隣から農地を貸してくれる人が続々と現れた。現在、家族は妻42歳、早稲谷育ちの中学1年と小学5年の娘さんが2人、耕作地は水田120㍓、畑50㍓、早稲谷一の太百姓である。

所有する機械類はトラクター32馬力、乗用6条田植機、乗用2条刈コンバイン、乾燥機、籾摺機、すべて中古品を購入した。故障が多いといわれるが、友人に修理の得意な機械屋がいるので安心だと仰しゃる。

農作業は夫婦で分担、彼が水田、奥さんが畑で有機無農薬栽培を行っている。水田では粳米コシヒ

カリと糯米コガネモチを作っているが、有機無農薬栽培のための配慮と作業、すなわち周囲の水田より植え付けを遅らせ病虫害を防ぐための配慮とチェーンを用いた除草作業が求められる。チェーン除草は年3回、田植機の後ろにすだれ状のチェーンを取り付けて引き回し、180秒間隔で除草を行うもので、田グルマでは10㍓当たり3時間要する作業を30分で終える。この時イネも倒れるが、すぐに立ち上がるそうだ。収量は10㍓当たり普通栽培の6割、300粒程度。しかし、友人・知人を中心とした顧客に直接3割、1万8千円で販売しているので十分に採算はとれているという。



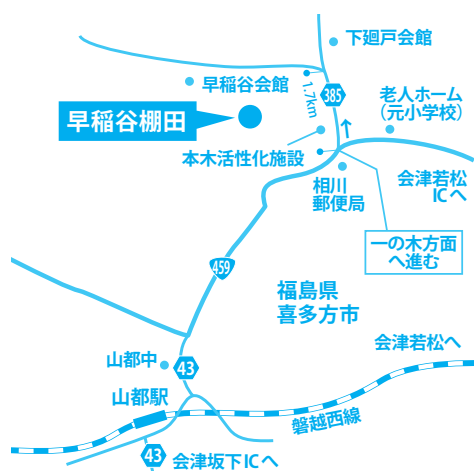
浅見夫妻。地域の交流拠点「茶房 千」の前で

畑では、ナス・キュウリ・トマト・インゲン・ピーマン・オクラ・ジャガイモ・タマネギ・ズッキーニなど多種類の野菜類が栽培され、ナス・インゲンは東京の「大地を守る会」に出荷、その他はセット野菜にして会津若松や近隣の商店やスーパーに販売されている。

このように、彼は有機無農薬栽培の旗印を掲げ、計画的に就農を進めるとともに、冬の農閑期に働く場所を確保して生活の安定を図るという堅実な一ターンの農民である。また、過疎高齢化で危機に瀕

していた集落総出で行う本木上堰の堰浚いに、最初は知人数名、現在では50名にも及ぶ作業ボランティアが参加する取り組みの立ち上げに中心的な役割を果たした。この活動を通じ、農業における民の公共としての社会的役割を自覚、その実践のために地域が持っている技・知恵・体験の学習と継承に日々汗を流す百の仕事をつなぐ百姓でもある。

早稲谷棚田へのアクセス



【公共交通】 JR磐越西線山都駅から6.5km、タクシーにて約10分

【自動車】 磐越道会津若松インターを降り、国道121号線を北上、国道459号との交差点を左折し山都町方面へ。山都町相川地区のT字路を一ノ木方面へ。本木活性化施設が目印。インターから30km、車で約50分

共働学舎と「アラヤシキの住人たち」

農政ジャーナリストの会 吉田 忠文
(東京都東久留米市)

北アルプス白馬山麓にある小谷村は林野が9割を占め、狭い耕地のほとんどは棚田です。昨年11月22日に発生した「長野県神城断層地震」では、第9回棚田学会賞を受賞した中谷郷が大きな被害を受けました。平成18年から棚田オーナー制度に取り組んでいた伊折集落では、山からの水路が抜けて田植えができなくなり、懸命の復旧作業が続けられています。

その小谷でいちばん高い標高900メートルの地点にあるのが真木集落。JR南小谷駅からは1時間半ほど登る細い山道しかありません。集落の人口がもっとも多かった1958(昭和33)年には12戸92人が暮らし、小学校の分校もありましたが1972年に廃村となりました。

「共働学舎」についてはご存じの方も多いと思います。1974年4月、「競争社会ではなく協力社会を」という理念のもとに、小谷村^{たてや}立屋集落にて生まれました。創設者の宮嶋眞一郎さんは東京の自由学園教師でしたが、目に病を得て光をほとんど失った50歳の誕生日に退職。「健康な人の教師でいるよりも、体の不自由な人や社会の中で生きづらい人たちと、共に過ごす場をつくりたい」と考えたのです。

真木共働学舎は立屋の2年後に開設されました。私は東京での仕事を続けながら1988年に小谷村へ移住しましたが、当初から宮嶋先生には多くのことを教わりました。真木に呼ばれたのは20年前のことです。国際農業者交流協会が欧米に派



真木共働学舎の共同住宅「アラヤシキ」

遣する農業実習生のリーダー研修を1〜2ヶ月、共働学舎の農場で行っていたからです。このときは全米各地に2年間派遣される120人余の代表8人とともに、アメリカ農業の厳しさについて語り合いましたが、派米農業青年代表も宮嶋先生の教えと真木での重労働は骨身にしみたと感じました。

真木では今も90年前に建てられた茅葺屋根の家「アラヤシキ」に井上宗高・いづみ夫妻を中心に15人が30アールの水田と50アールの畑を耕し、ヤギ3頭・ニワトリ約30羽とともに共働しています。日本国際ワークキャンプセンターなどからの外国人研修生や欧米・東南アジアからのボランティアが訪れるほか、青山学院女子短期大学子ども学科の実習教育や8月の子ども合宿などは学舎設立以来続いています。

真木共働学舎の春夏秋冬を描いた本橋成一監督の記録映画『アラヤシキの住人たち』が5月1日に東京・ぼれぼれ東中野で封切られました。写真家としても著名な本橋監督は自由学園卒で先生の教え子です。農業こそ人間教育の場であることを実践された宮嶋先生は、封切の4日前92歳で昇天されました。

会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! (ご要望、感想や質問でもOK!) (会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

写真レポート

山梨県甲斐市の棚田で環境整備



5月30日(土)、新生フィナンシャル(当会法人会員)とグループ会社の約30人の社員の皆さんが、山梨県甲斐市の「御領の千枚田」で環境整備のお手伝いをしました。

棚田散歩

愛知県新城市（旧：鳳来町）
四谷千枚田



（東京都 長さやか）

※友人とは「棚田はエライ」（農文協）の編著者である石井里津子さんです。

四谷千枚田の想い出

先頃、上の子が十歳になった。年の数に「つ」がつく頃の子どもはまだ神様のものという話を聞いたことがあるが、彼はめでたく神の領域から逃げ切った。

その子がお腹にいる時に、同じく友人※のお腹にも初めての子どもがいて、大きなお腹をかかえて棚田へ出かけた。役場の方と保存会の方々のご案内で、えつちらおつちら棚田のわきの坂道を登っていった。四月の棚田は、桜の淡いピンク色と田植えを迎える前の草の茶色と周りの針葉樹の緑色が春霞の中に溶け合っていた。その景色の中で昔の女性たちに思いをはせた。舗装してある道なんてない時代、農作業中に陣痛が始まったらどうしていたのだろう。棚田の崩れやすかったり、ものすごく高かったりする畦道を、大きなお腹を抱えながら、そして時折やつてくる激しい痛みに耐えながら、家へと急いだのだろうか。もしかしたら家までたどり着けなくて、棚田でお産ということもあったのかもしれない。

その後、私はもう一人、友人はもう二人、神様のところから赤子を連れてきて、棚田と一緒に生きてきた女性たちが長年やつてきたように、やり方は全く違うけれど、彼らがお腹をすかせなくてもすむようせっせと働いている。



一献の系譜



©映画『一献の系譜』製作上映委員会

2015年／日本／制作・配給：グリクエイツ株式会社／監督：石井かほり／2015年9月26日より新宿武蔵野館にて公開予定!

映画『ひとにぎりの塩』で能登半島の里海での塩づくりを追った石井かほり監督が、今度は同半島を舞台に日本酒の地位向上と後継者育成、更には日本のモノづくりの精神性の高さや、米が実る日本の豊かな土壌とそれらに感謝する信仰心の崇高さを日本之宝として遺すべく今作を撮影。里山をテーマに、珠洲市若山の洲巻という棚田での四季の移り変わりが記録されています。また、「人間は自然の中で生かされている」という大テーマの象徴として輪島の白米千枚田も登場。世界に誇る技術である「杜氏」の酒造りと、能登の美しい風景は必見です。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



大江正章(著)
¥800(税別)
岩波新書
(岩波書店)
2015年5月

「限界集落」「地方が消滅する」などと言われて久しいが、著者は「都市型社会に未来はない」「若者の農山村・田園回帰志向は変わらない」と言い切る。本書に示されている豊富な実例の舞台はほとんどが中山間地域。共通するのは「人がいること」「仕組み」をもっていることだ。と言ってしまうは簡単そうだが、それを「真似」するのはたやすいことではない。地域の状況が違ってくるからだ。それでも「地域への強い思い」があれば希望が見えてくることを、この本は教えてくれる。

地域に希望あり——まち・人・仕事を創る

春の講演会／新宿エコギャラリー

2015年5月31日 報告 上久保 郁夫

中島代表の講話「千畝と十作」に続いて、4人の方に登壇して頂きました。

企業のCSR部門からみた棚田を語る斎藤さん、企業との協働は欠かせません。ブラジル、ロシア、スペインと国際文化交流に取り組んできた上野さんの話も興味津々。学生ボランティア三島さんのトークは整理されたノートを片手にとても新鮮でした。トキの保護に携わって15年の中島さんには佐渡や中国のトキと棚田との関わりを話して頂きました。大いに盛り上がるも時間切れ、申し訳ありませんでした。



甲斐市の棚田で田植えイベント

2015年6月6日 報告 豊岡 翠

棚田ネットワークが仲立ちをした良品計画さんの「田植えイベント」が、山梨県甲斐市御領の棚田で行われました。募集期間は2週間ほどでしたが、県内外から店舗のお客さんなど約30名が集まり、晴天の下で田植えを楽しんでいました。

参加者は半分が山梨県内とのことで意外でしたが、良品計画の方も、募集期間に余裕があれば、都内からもっと参加するのでは、とのことでした。

御領棚田の保全会では、今年は棚田米の販売に力を入れていきたいそうです。棚田ネットワークでも何かお手伝いできるといいと思います。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

先日、話題の北陸新幹線に乗って金沢に行ってきました。東京からあつと
いう間の2時間半！本当に近くなりましたね。
ところで北陸に行ったということは、目的は棚田？いえいえ、今回は訳あつて家族での純粋な金沢観光旅行。ここ数年、地方への旅と言えば棚田がらみで、まず目指すのは「〇〇棚田」であつて、観光は地元の人にお勧めのスポットを案内してもらつたパターンがほとんど。今回のように自分で観光ガイドを片手に兼六園、金沢城、近江町市場、21世紀美術館、茶屋街などなどの王道の観光地を見て回る旅行なんて何年ぶりだつたでしょ。
それでもやはり棚田バカ。街なかを歩いてみると、「千枚田」の文字や写真が見える度に心が疼きます。実は、私まだあの有名な能登半島の棚田に行つたことがない…。思わず観光ガイドの地図を見て計算。レンタカー借りれば行けなくもない。行くべきか行かざるべきか…。さり気なく同行者たちに、「いやあ、実はすぐきれいな棚田があるんだけど見に行く？」「どれくらいかかるの？」「2時間半くらいかな」「…」。
まあ2泊3日の金沢観光。棚田行つたら「1日完全に潰れちゃうからね。相
当な棚田バカ集団じゃなくちゃ実現しませんよね(笑)。
それにしてもさすが観光型棚田としての第一人者「白米千枚田」。金沢周辺でもやたらと情報溢れてる。なのでせめてお土産にと白米のお米を一部使つて
いるという純米酒「千枚田」を買つてみま
した。スッキリとした味わいでとても美
味しかったです！



スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
kuwakuwa

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

川代棚田で初めての田植え



新しい体験フィールドの千葉県・鴨川市の川代棚田で、初めての田植え体験ツアーを5月9日に実施、38名もの多数の参加をいただきました。当日は天候に恵まれ、新宿から2時間ほどで到着。改めて地の利の良さを実感しました。

田植えは、目印のひもで横一列に全員並んで植えていきました。人数が多いため1時間ほどであったという間に完了です。田植え後は、廻りの田んぼや照葉樹林の山々、さらには遠く鴨川温泉のホテルを眺めながらのお弁当の味も格別でした。帰りは、海に近いという川代棚田の利点を活かし、鴨川の魚見台に寄り海岸散策で潮風を満喫しました。川代は早場米の産地ですので、8月30日(日)に稲刈り体験ツアーを実施する予定です。また、地域で実施している棚田オーナー制度の草刈り行事や収穫祭にもできるだけ参加しながら、棚田ネットワークの活動が地域に定着するよう目指していきます。

稲の生育も順調との事でしたので、会員の皆さまの稲刈り体験ツアーへの積極的なご参加を心よりお待ちしております。(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの田植え



今年の棚田ビオトープの田植えは天候に恵まれ、暑くもなく寒くもない5月22日(金)におこないました。NPO法人恵那市坂折棚田保存会の田口会長からご挨拶と坂折棚田についての説明を頂き、作業開始。まずは、岐阜県立国際園芸アカデミー学生など20名で田の中にある草取りをしました。その後、中段の「ふれあいの棚田」では中央にある岩を中心にドーナツ状に田植えを開始、そして、上段の「昔ながらの棚田」も田植えをおこないました。参加者はヤマアカガエルのオタマジャクシの多さに驚き、サワガニの生物を捕まえ楽しんでいました。

なお、8月22日(土)10時から「夏休み・こどもビオトープ観察会」を予定しています。詳細は未定ですので、関心のある方はまずご連絡を。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

田植え～草刈り・草取りと地曳き網祭



5月16、17日に田植えを行いました。参加者は過去最高の30名に達し、家族連れも多く子供たちの賑やかな声が棚田に響きました。8枚の田んぼの田植えもあっという間に終わり、保存会管理の田んぼに助っ人として協力もさせていただきました。

対照的に7月4日に行われた草刈り&草取り作業は、参加者2名。まさに祭りの後の静けさ(笑)。スタッフあわせて4名で黙々と勤しみ5時間かけて作業完了。二日目は毎年恒例の集落の祭「大地引網」に参加。挙げたばかりのアオリイカの刺し身や石部名物「うしお汁」をいただきました。みなさん、草刈りは地味な作業ですが、案外癖になる楽しさがあります! 次回は8月22、23日を予定していますのでぜひ体験してみてください。(高桑 智雄)

第21回 全国棚田(千枚田)サミット

テーマ

共につたえよう美しく豊かな棚田
～ふるさとを未来へつなぐ～

浜野浦の棚田



平成27年

10/23(金)～24(土)

開催場所

雄大な玄界灘に面した
リアス式の美しい海岸のある
佐賀県東松浦郡玄海町
玄海町町民会館 文化ホール 他



問い合わせ

第21回全国棚田(千枚田)サミット玄海町実行委員会事務局(玄海町役場産業振興課内)
〒847-1421 佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦348番地/TEL. 0955-52-2199 FAX. 0955-52-3041

主催:全国棚田(千枚田)連絡協議会 会長(山形県上山市長)/主管:第21回全国棚田(千枚田)サミット玄海町実行委員会 会長(佐賀県玄海町長)



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

最近、外国人観光客が急増しているといわれています。2014年には過去最高の1300万人を超え、しかも有名観光地だけでなく、日本人でもあまり行かないようなレアなスポットに積極的な足を運ぶらしいのです。当然これから予想されるのが「棚田」への外国人観光客の急増。事務局にもちらほら問い合わせが来はじめています。将来的には棚田紹介の英語サイトやガイドブックが必要になってくる時代がくるかもしれません。

そこで重要なのが、「棚田」の訳語。今までは「Rice Terrace」なんて訳されてきたけど、どうもピンとこない。やはり「棚田」は「Tanada」。日本の自然と調和した農業文化のシンボルとして世界に誇りたいですね。

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
イベント情報、ブログ等
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>

棚田に吹く風

2015年 夏号 Vol.97

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565